CHATEAU DU BREUIL

シャトー・デュ・ブルイユは、ポイヤックとサン・テステフの境界線にほど近い、シサック村に位置するシャトーです。所有するのは、村の名前を冠したシャトー・シサックのオーナーでもあるヴィアラール家。シャトー・シサックの創始者ジャック・モンドンは、かつてシャトー・クレール・ミロンも所有しておりました。（当時の名前はシャトー・クレール・ミロン・モンドン）

シャトー・デュ・ブルイユの畑は６世紀から存在しており、メドックの中で最も古い農園の一つです。近隣には当時使われていた古い要塞の遺跡が建っています。畑はシャトー・シサックの隣に位置し、南～南東向きの斜面です。土壌は中程度の大きさの砂利を含む粘土石灰質。「最高の葡萄畑は川の見える所にある」というメドック地方の言い伝えがありますが、この畑の近くにも、ポイヤックとサン・テステフの境界を通るブルイユ川が流れ、水はけの良い土壌です。また、ポイヤック、サン・テステフをそれぞれ代表するシャトー、シャトー・ラフィット・ロートシルトやシャトー・コス・デストゥルネルから５キロ程度の場所に位置します。

参考評価

ギド・アシェット 2013 年版より ChDuBreuil2009…1 つ星（お買い得マーク付き）

【掲載文章抜粋】

古くからここには本物の要塞があり、様々な伝説やゴーストストーリーの舞台となった。 幽霊だけでなくここのワインも誇れるものです。ガーネット色にムラサキのニュアンス。 赤い果実やコーヒー、トリュフの香りが現れ、タンニンの質も高く柔らかい。

e-RobertParker.com/ ChDuBreuil2009…89 点（ニール・マーティン）

【掲載文章抜粋】

ラズベリーや野苺などの赤色果実、花やオレンジシャーベットのエレガントなブーケ。 口中でまろやかに広がり、赤い果実や柑橘類、タバコのヒントも感じられる。 余韻までバランスよく、褒めるべきクリュ・ブルジョワ。

CHATEAU DU BREUIL 2011

原産地呼称：A.O.C. HAUT-MEDOC　Cru Bourgeois

品種：メルロー49%、カベルネ・ソーヴィニヨン 30%、カベルネ・フラン 9%、プティ・ヴェルド 12%

醸造：ステンレスタンク発酵、フレンチ・バリック 12 ヶ月

熟れたカシスなどの黒色果実に、紅茶や革、腐葉土などの香り。シナモンやアニスなどのスパイスのニュアンスも感じられます。瑞々しいアタックから、熟れた柔らかいタンニンが広がり、酸もまだ綺麗に感じられ、程よいミネラルと共にエレガントに口中に広がって行きます。

■ 輸入元 ■

株式会社ヴァンクロス(Vin X Co., Ltd.)

150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第1ビル5F TEL:03-6450-3687 FAX:03-6450-3688